北九州工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語運用能力演習

科目基礎情報

科目番号	0010	科目区分	一般 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	生産デザイン工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	1
教科書/教材	『Fundamental Science in English I 理工系学生のための基礎英語 I 』亀山太一他、SEIBIDO		
担当教員	渡辺 眞一		

到達目標

1. TOEICで400点相当の得点を取ることができる。
2. 理系教科における数式・自然現象等の基本的内容を英語で表現することができる。
2. 全般的な英語運用を支える基礎的能力(文法・表現)を身につける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	TOEIC400点以上の得点を取ることができる。	TOEIC400点相当の得点を取ることができる。	TOEIC400点相当の得点を取ることができない。
評価項目2	理系教科の基本的内容を正確に英語で表現することができる。	理系教科の基本的内容を相手に伝わるように英語で表現することができる。	理系教科の基本的内容を英語で表現することができない。
評価項目3	教科書で学習する文法・表現を正確に用いて表現することができる。	教科書で学習する文法・表現をほぼ正しく用いて表現することができる。	教科書で学習する文法・表現を用いて表現することができない。

学科の到達目標項目との関係

専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SE① 歴史・文化・日本文学（国語）・外国語を学び、多様な文化を理解できる。
専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SE③ 専攻分野の技術英文を含め、英文を読解し、日本語での内容説明ができる。
専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SE④ 調査・研究の目的と内容を理解した上で、その概要を英語で記述できる。
専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SE⑤ 英語による基本的な会話ができる。

教育方法等

概要	理系教科における数式・自然現象等の基本的英語表現および関連する文法を習得することで、全般的な英語運用能力の向上を図る。テキスト各課内容を学習することで英語文献講読・英語研究発表の基礎的能力の育成を目指す。また、適宜行うリスニング・スピーキング活動によって実践的英語運用能力の育成を図る。理解状況に応じて小テストを課すことがある。
授業の進め方・方法	通例はリスニング・スピーキングによるウオームアップ活動を行った後、テキストの問題を演習形式で解き理系教科における基本的英語表現の習得をすすめ、その後の解説でさらに内容の理解を深める。活動内容に応じてペアワーク・グループワークを多用する。自宅では別途指示する課題に取り組み、適宜提出する。また、理解状況に応じて小テストを課すことがある。
注意点	提出物の期限を厳守すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス リスニング活動	授業の進め方、テスト、テキスト、シラバスなどについての説明を理解 リスニング理解
		2週	L1 Part 1-2	数と計算1 数をたずねる疑問文
		3週	L1 Part 3-4	数と計算2 to不定詞
		4週	L2 Part 1-2	図形1 関係代名詞1
		5週	L2 Part 3-4	図形2 関係代名詞2
		6週	L2 Part 5-L3 Part 1	図形3、物質の状態1 分数を使った表現
		7週	中間試験	
		8週	試験解説 リスニング活動	
	4thQ	9週	L3 Part 2-3	物質の状態2 前置詞＋関係代名詞
		10週	L4 Part 1-2	グラフと関数1 関係副詞
		11週	L4 Part 3-L5 Part 1	グラフと関数2、人体1 部分否定
		12週	L5 Part 2-3	人体2 関係副詞の非制限用法
		13週	L5 Part 4-L6 Part 1	人体3、電気・電子1 現在完了
		14週	L6 Part 2-4	電気・電子2 make＋O＋C
		15週	定期試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	課題・小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0